

大田圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成26年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H26目標	H26実績	達成率
大田-1	集約化木材生産実践プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・2つのモデル団地設定に向けた協議と、集約化のメリットを検証する手法の検討が進んだ。 ・異なる森林組合の現場を見ることにより、作業システムの改善に向けた意識が高まった。 ・コンテナ苗や天然下種更新による森林再生手法の検討を継続して行った。 ・技術研修会に参加し、人材育成を進めた。 	木材生産団地からの針葉樹原木生産量(m ³)	21,000	23,308	111%
			集約化木材生産モデルの設定(団地)	4	4	100%
			施業提案書の提案件数(件)	50	58	116%
大田-2	松資源有効活用推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・集約化プロジェクトの連携により、松伐採団地を設定するとともに、設定団地から松材が出材できた。 ・松製品については、製材所が県外展示商談会等に出品し商談を行った。 ・また、県外木材販売業者に松梁桁製品を多量に納材できる可能性がでてきており協議を継続してきた。さらに1社が県外ニーズに対応し歩留まり向上にも資する新製品「松板製品」の施設整備も完了し、市内製材所2社による松板製品の県外出荷を開始できた。 	松製材品県外出荷量(原木換算:m ³)	1,600	1,400	88%
大田-3	邑智郡産木材の県外販路開拓プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土会への情報発信の継続や、島根ふるさとフェアへの出展などによって、郷土会にPJの取組が一層認知された。 ・3層パネルを使ったリフォーム関連製品等の開発を進め、製品バリエーションを増やすことができた。 ・町営住宅部材の共同販売・ストックに取組み、町産材供給を円滑に進めた。 ・3層パネルの国交大臣認定取得に向け、製造工程を改良し、製造・品質管理マニュアルを作製した。 ・また3層パネル原板製造能力の不足を補うため、周辺製材業者が連携して原板製造を開始し、一般製品を含めて増産体制が整いつつある。 ・原木安定調達に向け、町産材利用促進協議会と連携し、町産材の安定調達システムの検討を進めた。 	製材品県外出荷量(m ³)	1,600	1,450	90%
大田-4	邑智郡菌床しいたけ産地競争力強化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・単価の下落、コスト増大、高齢化等のため未だに生産者の意欲は低迷している。今年度はしいたけ生産者の従業員数の減少により、菌床数がH25年度より約2万菌床減少しており、販売数量・販売高が伸び悩んでいる。 ・こうした中、生産組合発案の「きのこ塾」が開催され、若手後継者の知識向上と、新規生産希望者の関心を高めることができた。 ・袋出荷の初導入や加工品開発の検討により、単価向上への取り組みが進んでいる。 ・食育授業を生産者が取り組むよう促すことで、意欲向上を図っている。 	菌床しいたけ販売高(百万円)	182	131	72%
			菌床しいたけ販売数量(t)	207	127	61%